

初

權

將

有

明治廿七年六月出版

天理教道

京都書林 護法館發行

天理教退治

越南子



緒言

世に天理教と申す一種の邪法ありて。方今盛んに我邦下
 等民人の間に行はれ。都鄙到處として。跋扈の慾を逞ふ
 せざるはなし。而て其説く所其行ふ所あまりに卑陋蒙昧
 にして。野蠻極の教なれば。世の識見あるものは。却て是等
 淺薄なる教に向つて。攻撃難破の筆舌を勞することを耻
 ぢ。愚爺痴媪の猖獗果して何事をか。なさんと度外に放棄
 するも。其實大に然らざるものあり。凡そ世の中は多く愚
 人に由て成立つものにして。主として感情の力に依つて

動かざるゝものなり。能く道理を知て事物輕重の割合を辨ふるものは古今おしなべて十の一二に過ぎず。去れば西哲の諺にも滔々たる世界無數の人類は皆な是れ情海の塵芥なり。單に道理の力に依つて運動するものは百中僅かに一二を見るのみとは云へり。世の中は果して感情に依て動かされ愚民に依つて成立つものとするれば愚民の團結ほど社會に勢力を有するものはあらざるなり。即ち天理教會は愚夫痴婦の集合体なれば憂ふるに足らずとは大なる誤謬たるを知るなり。天理教會が隱然として強大なる勢力を有し。國家の發達を妨げ社會の進歩を害しつゝあるは終に掩ふこと能はざるの事實にはあらず

大誤謬

眞宗の大敵

や眞宗の如き儀式を貴ひ感情を主として組織せられたる宗旨に取りては實に由々しき大敵と謂はざるべからず。今にして防禦の術を施さずんば遠からずして東西兩本願寺等の畏るべき一大難關と化するの日あるを信ずるなり。即ち佛教最急の敵は遠く彼れ耶蘇教よりも近く此の天理教にあるや疑なきなり。現に伊賀。近江。山城。播磨。攝津。丹波。但馬。紀伊。若狹。越前。中國。四國等に於て佛教は自在に蠶食せられ。轉宗改式をなすもの陸續として輩出し。僧侶は防禦の術盡きて啞然として顔色を失へるもの少なからず。堂塔佛殿は野の末。山の上までも聳立し。梵鐘讀經の聲は到る處に聞ゆるも。祖先以來累代お預りの同行

信徒はセメテ宗旨らしき耶蘇教の手にでも奪はるゝこ
とを教もあらふにウタテヤナ侮り果てたる天理教のた
めに迷毒に酔はされて昨日まで高坐の下に跪きて聞其
名號の謂れを喜び南无阿彌陀佛と稱へし身が今日は念
珠さへ手に持たず祖先累代の位牌を焼き佛壇を壊き經
文を棄るさま朝の妙好人も夕の悪鬼夜叉と變ずる習ひ
往生の善知識と頼みける菩提寺の住職さへ今は教會の
仇敵として嘲けらるゝに至る住職寺僧たるもの又た何の
面目ありて朝夕佛壇に對するが馬鹿な爺や氣違ひ婆々
トンマ息子におてんば娘何と仕方もなかりけりと放看
一笑に附して可なる乎白髮頭を振立てゝミスく奈落

に沈むとも見ぬ顔するは佛の道の慈悲ならず明日の飢
渴も打忘れて助け給へ天理王命とピンシャン踊り跳ね
廻るを勝手に狂へよと打捨つるは同胞に盡すの義務な
らずイカに住職寺僧たらん人々よユメ油断なせが卿等
の侮りつゝある淺薄野蠻の天理教會は却て是れ卿等と
及ひ佛教特に眞宗の大なる敵なることを忘るべからざ
るなり即ち天理教邪法を退治撲滅するは佛教家が佛教
夫れ自身を保護するの上にて急務たるのみならず抑
も亦た社會國家に盡すの義務たるべきなり即ち天理教
退治の一篇成る所以なりとす。

○天理教の勢力

をみき 婆の死

天理教會の教祖と稱するおみき婆は大和國山邊郡三嶋村(當時庄屋敷村)と呼ぶ片田舎の百姓に中山善兵衛と云へるものありおみきは即ち其妻なりと聞へし。サテもおみきは天保以來頻りに妖術を弄びて愚人の暗き眼を欺き我れに十柱の神が降下ましましけりと言ひ觸らせしに於世の無學文盲の族はサテも不思議のことなり世にも有り難き尊き神のお使なりとて我れもくと競ひ争ふて狐使ひの婆々を賞嘆なすに至れり併しながらおみき生存中には公然教會の組織も成らず故に會員信徒なんど稱するものもなかりしなり而しておみき婆は去る明治二十年正月二十六日とやらに皺だらけなる骸骨

教會の許可

を世と欺きたる名残にと遺し置きて遂に黄泉に入りける。其翌明治二十一年春の四月にヤマコ連中の少し物知り等が相謀りて此儘におみきの跡を絶へさんはいと惜きことなりとて茲に組織を改めて教會となし其筋に願出で遂に許可を得たるなり是れ公けに天理教會の名實備るの始めなりとす尤も教會の組織を成すに當つて大におみき婆の唱へし處に誤謬齟齬の點多きことを知り十柱の神の内飲食出入の守護と稱する雲讀尊と衣類着物の守護と稱する帝釋天尊とは曾て神典中に見へざるの神名なることを知りて更に新しく豊斟淳尊と大戸邊尊との二神名を代用して出願しヤット許可を得た

る等種々の變更もありたりと聞けり故に天理教會にて
 はおみき婆を以て教祖と稱するもおみき婆の唱へし處
 とは大に諸種の趣を異にせるを以て今の天理教會は即
 ちおみき婆を利用して新たに出來たるものと謂ふも可
 なるなり何は兎も從來隱密の間に多くの歸依者を有し
 つゝありたるにもせよ公然明かに天理教會と名乗り出
 でたるより九六ヶ年に過ぎず而て其六ヶ年の間にい
 に世の中に跋扈したるかを見よ日一日に教會信徒の數
 を増し來るを以て迎も精密明細なる統計を得ること能
 はざるも現今既に二百餘萬人の多數なる信徒を有する
 と云へり六年間に二百萬人なれば一ヶ年に凡そ三十五

萬人つゝを得たりし割合なり加ふるに彼等教職及ひ信
 徒等の熱心は實に岩をも砕くばかりにて専心一意にこ
 りかたまりて教會のために盡すを以て年一年月一日
 一日より時々剋々に會員信徒を増加しつゝあるなり今
 より十年の後に至らば必ずや日本全土の上に強大なる
 勢力となりて佛耶宗教の間に介立して兎に角社會を動
 かすに至るや明かなり特に最も畏るべきは彼等は一片
 の道理を知らず主とする處は無智文盲なる社會下層の
 民人にあるを以て稀に道理上多少迷蒙を破らんとする
 ものあれば一も二もなく直に教會の敵を以て呼びタマ
 デ相手にもなさず惡きを拂ふて助け給へ天理王命と耻

も外聞も更に厭はず平然として獨りスマシ込めるを以て所詮一度彼教會に入りしものには矢も鉄砲も耐まることにあらず且つ専ら人心の弱點にツケ込むを第一とし。病者にあらずんば即ち貧者に向つて現在眼前の利益を説くを以て信徒を得ることにも至つて容易ならざるを得ず。病は氣を狂はし貧は心を濫すの媒なれば多少道理を知るものにて苦痛疲弊の極は必ず他に向つて助けを請ふの依頼心を起さしむるものなり。況んや眼に一ケの文字もなく胸に三文の見識もなき愚民貧人に於てナドテ躊躇することとなさんや。是れ彼教會の大に繁昌する一原因たるものなり。凡そ宗教なるものは人の安心立

道理を
知る者
は教念
の敵

繁昌の
二原因

命を主とするものにして決して區々筆舌の上で談ずる道理の上に存するものにあらず。天理教にして他日進化一番の下純手たる宗教の性質資格を具うるに至らば或は遙かに佛耶二教の上に超絶するの奇觀を呈することなきとも未だ保せず既に二百餘萬の教會信徒を有し猶駭々として四馬に鞭つの勢あり最早到底容易に撲滅し去ること能はざるなり既に撲滅する能はざるを知る以上は進んでは彼等に改良を促し退ては之が防禦の策を講ずるを以て急務とするの外なきなり。嗚呼面倒なるかな。ホニ世の中は斯くもウルサキものなるか。

○天理教の利益(民心固結と耶蘇教防禦)

佛耶二
教に超
絶

目下の
急務

既に二百萬の會員信徒を有し。都鄙到る處として盛況を呈せざるはなしとすれば。免に角社會の一大勢力たるや疑ひなきなり。唯夫れ國家の文明を妨げ。社會の發達を害し。無智の良民を迷はしむるを以て世に貶斥せらるゝなり。若し有識の士ありて彼等教會の頭上に立ちて從來の弊惡を洗ひ去りて斷乎たる改良を加ふることあらば。其將來に於て頗ぶる多望なる團體たらざるを得ざるなり。凡る集合し易くして又た滅離し易く。滅離し難くして又た集合し難きものは下層無智の民人なり。之を容易に團結集合せしめて又た支離滅裂の憂なきしむるは古來如何なる英雄豪傑にても甚だ難事とずる所なり。而て世間

多望の
團體

何種の事たるを問はず。總て團結一致の勢力に頼らずんば。決して社會を動かさし民心を戒むるに足らざるなり。而て團結の必要は道理を知れる上流人士にあらずして。寧ろ無智文育の下等民人にあるなり。災は下からと俗諺さへ明かに之を證するにあらずや。既に下等民人を團結するの必要ありて。而て之を團結せしむるの所以に乏しく人皆な其方法に苦めり。即ち下等民人を統括して一團の下に結び。一命令の下に坐作進退を自在に動かさしむるは淨土宗よりも眞宗よりも寧ろ天理教を以て第一となさゞるを得ず。看よ天理教職が智慮分別もなき水呑百姓の分際を以て。僅かに一朝の誘ひに先祖累代の位牌さへ壞

き却て數百年來の菩提寺に恨みの數々つらぬるに至らしむるにあらずや而て未だ曾て天理教より脱して眞宗に歸りみかくら歌を引割きたるもの一人としてなきにあらずや即ち知る天理教は民心固結の上に於て最大便益なる利器なることを加之ならず彼れ耶蘇教を防ぐの上にて又た偉大なる効力を有するものなり耶蘇教の如きは元と信すべきの眞理あるにあらず唯一片の情感の上に成れるの宗教にして僅かに金錢と愛との力に依つて愚民と婦女子とを誘惑するに過ぎず其天理教を去る寧ろ甚だ遠しとせざるなり近時理學哲學の攻撃に遇ひ國體論者の非難に苦められて生意氣にも道理らしく

教義を唱へ無理ヨジツケに國體に合せんことを務むるを以て内部の混雜と共に外は世人の信を失ひ内は大に離散の傾きある時に乘じて彼れが空虚にツケ込みて其信徒を奪はんとするものは天理教なり彼れ耶蘇の信徒等は從來の行掛り上決して佛教に歸することを好まず去りとして無宗旨に終らんも變なものなり一層飛ひ穢けて高尚なる考を以て安心立命を求むるなどは夢にも知らざる所即ち馬鹿は馬鹿同士にて天理教に入るもの續々あるは亦た數の自然たる勢なり又た新奇に集るは物ズキなる人心の常にして餘り面白さふなものじや一寸這入て見やふかとツイフトしたる心に浮かされて

知らずく迷ひ込むもの少なからず。即ち耶蘇教の得意先きも下等愚民なり。天理教の得意先きも下等愚民なり。而て真宗の得意先きも從來多くは下等愚民にあり。而て三方の助人ある下等愚民は擧げて新奇を好むの癖あり。真宗も古し。耶蘇も古しと天理教に入込むまり入込む愚民其者が惡しきにはあらず。真宗にまれ。耶蘇教にまれ。民心固結の勢力に乏しき致すの一果と見るの外なきなり。故に今にして若し有爲の士が現れて天理教の弊害を除きて大に改良を加へて。國利民福の上に妨害なきまで進化せしむるを得ば。即ち明かに民心固結の最良利器にして。又た耶蘇教妨害の一大城壁たるを得るなり。去れ

某貴顯の黒幕

ばにや世の風説に依れば或筋の上に立てる某貴顯は。然黒幕の裡に在りて。統御の責を握り。將來時機を待ちて大に國家と及び宗教の上に雄飛せしめて。活用することと計策しつゝありと云へり。夫れ或は誠に然らんか。

○おみき婆の素性。教會組織の魂膽

天理教を知るものも知らざるものも。總べておみき婆を以て甚だ重々しく視るの傾あり。甚だ迷へるものと謂ふべし。おみき婆は是れ一個の狂人にして。決して畏るべきの鬼神にもあらず。又た決して崇むべき十柱の神の使にもあらざるなり。既に通常人間の資格に離れたる狂人なれば。或は老狐も附きつらん。或は意表外のことも言ひ

一個の狂人

十柱神
の際下

行ひもしつらん。天保十年亥十月に悴善右衛門が足の病
を癒さんために山伏脩験者を招きて護摩加持を修行す
るに醫藥に優れて効験あるを見ておみき婆は狂氣の熱
を増して我に十柱の神が降臨ましましてしけりと弊を振つ
て夢中に叫ぶに夫善兵衛を初め豫て迷信の深き無智
の頑民に當時一方に於ては右の護摩修行中にて今にも
靈験顯はるゝことごと戦々競々と謹み誠め畏るゝ折柄
なればこは有難き御仰せみな何卒御助けに預りたしと
擧て狂熱に浮かさるゝに至りしなり。時も時なり相手も
相手なり。おみき婆の發狂は甚だ都合よく世人に持て囃
やされたるなり。サテも教會の組織は如何なるものかと

狡猾策
士の魂

案外の
榮譽

云ふに。おみき狂婆の死して後ち世にも狡猾なる策士あ
りて。一狂婆の行爲が斯くも人々に持て囃されけむ。此
儘に絶へしめんは最と惜しきことなりと思ひて。則ちお
みき婆を利用して之を教祖と崇め死人に口なきを幸ひ
ムヤミヤダラにおみき婆を賞嘆して。イカにも十柱の神
の降臨ましまして我等を助け救はんがために。おみき教
祖の身体を借りて斯くも神變不思議の妙験を示されけ
るなりとて。遂にはおみき婆を崇め込みて仕舞ひたるな
り。おみき婆若し靈ありて死後地下に於て正氣に復しけ
るならばサソヤ案外なる榮譽に驚けるならん。即ち知る
おみき婆は一個の發狂人にして。今の天理教會はおみき

狂婆を利用して起りたる狡猾策士の工風に成れる愚民の集合体なることと。千年蓄へば塵芥瓦礫も有用の器となることあり。無智文盲の愚民の間に生れ出でたる一個の狂氣者も。今はハヤ教會の教祖として崇拜敬禮せらるゝに至る。世の中は眞に馬鹿氣たるものならずや。

○十柱の神の正体(珍魚博覽會)

十柱の神

十柱の神とは何ぞやと尋ぬるに。國常立尊は人間身体の濕ひを守護する神なり。游母陀流尊は人間身体の煖みと守護する神なり。國狹槌尊は人間身体の皮筋の守護の神なり。月讀尊は人間身体の骨の守護の神なり。雲讀尊は人間身体の飲食出入の守護の神なり。惶根尊は人間身体の

二頭一尾の大龍

十二頭三尾の大蛇

鼻息呼吸吹き分けの守護の神なり。帝釋天尊と大土邊尊は人間身体の着物衣類の守護の神なり。伊弉諾尊は人間の因にして。伊弉册尊は人間の縁なりと云ふ以上即ち十柱の神なり。中に國常立尊と申すは天に在つては月輪土性にして元との正體は一頭一尾の大龍なり。又面足尊と云ふは天に在ては日輪(火性)にして其正體は十二頭三尾三劍の大蛇なりとし。此二神即日月を以て世界萬物の祖神なりとするなり。月讀尊は天の破軍星(木性)にて戌亥の方の鯁なり。雲讀尊は天の曉の明星(水性)にて東方の鰻なり。國狹槌尊は天の源助星(金性)にて辰巳の方の龜なりと云ふ。以上五神を以て即ち五輪五體とは申すなり。伊弉諾

人間の心魂 九億九千九百九十九萬九千九百九十九の頭の萬物の始 人間の父母の始 天理王命

伊弉册の二尊は北の方の人魚と南の方の白蛇なり。惶根尊は末申の方の鯨にして。大戸邊尊は西の方の黒蛇なり。帝澤天尊は丑寅の方の河豚なり。而して我等人間の魂は當時泥土の中に潜める九億九万九千九百九十九足の鱈あり。是を以て人間を造り給ひけるなり。即ち面足と國常立の日月二神は世界萬物の始め。伊弉諾と伊弉册の二神は父母の始め。他の六神は人間萬物の雛形手本にして。皆な悉く我等を守護ましますなり。此十柱の神を總稱して天理王命とは申すなり。と教ゆるなり。嗚呼。是れ抑も何と云ふことろや。イカに無智文盲の愚民を欺くの手段なればとて。能くも白晝とも耻入らずして斯くまでに妄誕不

魚物博覽會

稽の淺間しき譚語を並べ立てけるよ。十柱の神の正體を見れば丸で魚物博覽會を見るが如く。臭氣鼻を衝くばかりなり。鯨や鰻に鯨や龜。人魚もあれば河豚もあり。白蛇もあれば黒蛇もあり。サテは一頭一尾の大龍に十二頭三尾三劍の世にも珍らしき空前絶後奇妙不可思議妖怪千万なる大蛇あり。而して十億に一足足らぬ九億九万九千九百九十九正と云へる奇數づくめの鱈あり。若し今日にして斯る奇物珍魚のあるあらばサゾヤ面白き一大觀物ならん。に惜むべし。鱈は變じて人となり。龍や蛇は神と化したることの憾めしきよ。然れども道理上事實に於て然るべき奇怪の珍事あるべき謂れあらず。氣の毒ながら氣違ひ

熱に浮かされて夢中に讒語を並べたるまでに過ぎざるなり。去るにても斯る妄誕なる欺八百を以て無智の人民を誤魔化して國家の文明を妨げ社會の進歩を害することのツラ憎くさよ。茲に到つて一は彼等の愚昧を憐み。一は國家と社會とのために怒らざるを得ざるなり。汝等試みに能く思へよ。十柱の神は元ト是れ龜や魚や龍や蛇の變化したるものなりとは何を所據にて斯くは云ふぞ。苟も我邦皇祖の神體を以て物もあらふに汚はしき鱗魚龍蛇の變化せしものなりとは抑も無禮極る不敬千萬の申條にて候ぞ。然れども若し茲に一步を與へて十柱の神が果して龜や魚や龍や蛇より變化したるものとするも。天

無禮不敬

地成立の前に於て其の龜や魚や龍や蛇は果して誰れが造りけるぞ。而て人間の心魂は鱗なりと云ふ而も其數は九億九萬九千九百九十九疋とは聞へたり。人間が鱗より進化したりとはイト笑止なる一奇話にして。世界の人口は九億九萬九千九百九十九人を超ること能はざるも。何の理由ありて斯くも九づくめに奇數を集めたるぞ。世界中に往古より以來及び今より以後に於て人間の心魂なるものは九億九萬九千九百九十九個より外に仕入れなしとすれば死したる人の魂は何處へも行かずして又候立歸りては珍らしからぬ人間に生れ來るものなるも。何にもせよ世界の始めに生じたる龜や魚や龍や蛇は仕

合善くて神となりて後世にまで崇ばれつゝあるに。今の
 龜や魚や龍や蛇は鱈の變化物たる人間の餌食となりた
 り。翫弄物にせらるゝとは何としたる不仕合ものに生れ
 來つゝかな。昔の鱈は人に化し今の人は鱈を食ふ。ホニに
 變れば變る世の中かな。餘り馬鹿氣たる怪説に今は呆れ
 て物も言へず。難破の筆さへも動かぬまでに阿房らしき
 なり。今少し學問もあり。智識もある人に相尋ねてナトは
 人間らしきことを申立て、貫ひたきものなり。而て又た
 其十柱の神が何の因縁ありて特に女を選びて降臨した
 るものぞ。今少し他に人もあらふに餘りとしてナサケ
 なき降臨の仕様ならずや。茲に到つて益々明かにおみき

婆の狂人たりしと。狡猾策士の工風の疎なることを知ら
 るゝなり。

○天理教の害毒

現今天理教の跋扈なせる實況に就て巨細に害毒を牧擧
 すれば日も尙ほ足らずと雖も概して二三點を掲げて其
 現在眼前の害毒の一理を知らしめんと欲す。即ち彼等の
 説く所に據れば人苟も天理王命にさへ歸順すれば決し
 て皇祖太神を初め八百万の神祇は敬拜するに及ばず。十
 柱の神の保護に依れば田地を造るにも肥料を用ひずし
 て秋獲は必ず満足なる稻作を得。又た病氣に罹ることあ
 るも決して醫者の手を煩はしたり。高き金出して薬を求

めたりするに及ばずして直に平癒すべく甚しきは死したる者さへ蘇生すると申すなり。平素常に信仰の心深ければ貧なるものは富み、賤きものは尊く、富有なるものは財寶金銀を散らして教會のために盡せば、神の恵みに依りて直に十百倍となりて其家に歸り、富は益々富にならなり。教祖おみきの如きも教會のためには我子を殺し、家産を傾けて身体を勞を厭はず、或は人に罵詈せられ、或は獄屋に繋がるゝことありしも、毫も頓着せざりしを以て、遂には榮華榮耀に世を送り、綺羅錦繡の上にて身も安々と死を逐げたるのみならず、後世千万年の末までも教祖とし、神使として崇み拜まるとなり。是れ即ち神の恵みある

虚偽のなき明かなる證據なりとて巧みに愚民を瞞着し去るなり。婦女にして孕むことあるとも決して面倒なる腹帯なんど、中には及ばず、且つ産後一週間も退窟を忍びて床の上に静坐するにも及ばず、若し病に薬を吞みたり、産に醫者を招きたりすることあれば、却つて神の意に背き世にも畏ろしき神罰を受くべし、等と口に任せての出放題。人の貧とか病とか云へる弱味あるにツケ込みてオドシツケたりスカシたり、威壓やら脅迫やらにて無責任にヤリマクルなれば、無智文盲の愚民にして迷信の心深きものは何かは以て耐るべき、唯何事も神任せと縮み込みて恐れ入るの外なきなり。

○經濟上の害毒を掲ぐれば先づ社會の良民に向て遊惰の心を起さしめ依頼の氣を懐かしむるの原素を注ぐものなり。凡そ世の中は勤勉にあらざるば財金を貯ふることも能はず。人に依頼の氣を生ずれば何事も必ず失敗するものなり。故に獨立の氣力を以て勤勉するにあらずんばイカなる人にては決して俄かに富有家となることも能はず。然るは彼天理教は十柱の神さへか信心すれば田に肥料入らず病に醫藥入らず。貧は次第に富と變ずると教ゆるを以て遊んでいては神の恵みに依つて遠くならず富有の身となるべしと思ひ。其日暮の世にも墓なき身を持ちながら職業さへか打捨て、教會所に集りたす

けたまへと踊り狂ふを以て神に忠なるものと誇れり。思ひきや貧は富に化せずして貧は益々貧に沈み今は究迫の身となりて淵川へや身を投げん。木の枝にや縊れんと死地に頻するものさへ多々あるにあらずや。又た從來富有にて多少の資財を有するものにては教會のためには後に百倍の利益あれば何とて惜むことか。はと一文の役に立たぬ無益のことに祖先累代の手の皮汗の油にて。積み持へたる財産さへ盡く大風に灰の有様に。失ひ果て遂には寒天にさへ綿の入りたる衣數さへ着ること能はず。縊縷の耻を流すに至るもの前後往々として少なからざるにはあらずや。田地に肥料を投せずして収獲の多

拈殺の
田に泣

かゝるべき道理なく、一年經營辛苦して冷風寒き秋天に空しく拈殺の田稻を怨むものもなきにあらず。教會に向つて不足を云へばソハ信心の薄き罪なり我身を改むるの外はなしとしてツント跳附けらるゝなり。此結果は終に社會に多くの不義務者を生じ、多くの租税怠納者を出し、多くの公賣處分者を造り、多くの身代限者を見らるゝに至るや必然の勢なり。加之ならず根が無智の愚民なれば究して濫するてふ小人の常に背かず必ずや多くの拘兒、拐帶、竊盜等法律上の罪人を造り出して監獄署の繁昌を促かし、地方税の負擔を重からしむに至るなり。是れ豈に國家經濟の上に大なる害毒を流すものにあらずして何ぞや

不正人
間の溢

教育上
の毒害

○教育上の害毒 兒童教育の大切なるは父母家庭の訓を以て第一とするは今更に喋々するまでもなし。父母の膝の上より教へ込まれたることは善惡正邪に拘らず深く兒童の曇りなき心の上に深印せられて死に終るまで之を忘るゝこと能はざるものなり。方今文明の世に生れ、學術教育の甚だ盛んなる時節に處しながら、襦袢の裡より彼の妄誕不稽にして夢中の譚語にも劣る話をなしてイマダ物の東西さへ知らぬ内より、その曇りなき清き愛らしき兒童の心を欺きて、十柱の神は魚や蛇なり、人は鱈なりとして人生の劈頭第一に道理を推すてふ心の上に厚き蓋を掩ひて其發達を妨るゝや最も大なるなり。故に天理

父母家
庭の迷
訓

學齡兒童の放逸

公然教習を妨

教の中に養育せられて生長したるものは非常なる大英才にあらざるよりは容易に父母家庭の迷訓を破りて道理の正道に復すること能はざるなり。又た彼の家産を破り貧困に陥るもの多きを以て其影響は忽ち教育の上及び此の學問の盛んなる社會に生れなごら。アタラ學齡の兒童をして空しくワンパク遊びのノラクラ坊主に終らしめ就學の方向を失はしむること往々類例に乏しからず。猶甚しきに至つては學問するは却て生意氣な理屈を吐くの原因を養ふものにて神の思召に叶はず。唯十柱の神さへ信心し天理王命にさへ歸順すれば家も富むなり。品も善くなり人も賢くなるなりとて公然明かに兒童

風俗上の害毒

男女淫欲の媒介

教育の途を遮るの不埒千萬なる言をなすあり。其直接に間接に國家教育の上に大なる害毒を流すものにあらずして何ぞや。
 ○風俗上の害毒 あしきを拂ひて助け給へ天理王命と。三味線太鼓に琴や笛にて白晝とも憚らず夜中とも厭はず。老若男女打集ひて狂ひ踊るさまは氣の毒千萬にも又た笑止の外なきなり。風俗取締の嚴しき折柄に天理教會は公然と男女淫慾の媒介をなし其甚しきに至つては夫あるもの妻あるもの等が不義の姦通さへ之を取持ちするの奇觀あるなり。天理教會創りて以來ノラ息子おてんば娘のイダブヲ豊年にして世にも不幸なる私生の子を

私生兒の亂生

オヌクモリ

教會は待合の職居の改式の驗

生みて後の取仕末方に混雜を極むるもあり世間の外聞を憚りて墜胎し端なくも法律に問はれて自業の罰を受けつゝあるもあり特に或る教會所にては時々「オヌクモリしてふものを行ふよして深夜に生めきたる男女打混じて一同に教會所に集り更ふけて後ち燈火を吹き滅し恰も遊治郎放男埒が藝妓や娼妓と雜魚隊をなすか如き有様にて神のオヌクモリを頂くなりとして男女ナ・クリ合ふ世にも淺間しき醜猥の行爲は明かに風俗を壞亂するものにして教會所は即ち待合ぼんやに異ならず教職は恰も仲居妓夫の品位に在るものなり嗚呼之をしも風俗上の害毒と云はずして何ぞや加之ならず改式の驗な

暴行

我身知らず

衛生上の害毒

りとして祖先累代の位牌や墓石を壊きて野原や道路になげ棄て佛像を斬りて河へ流し佛壇を破りて火に焼く等實に正氣の沙汰とも思はれぬまでに暴行を働き恬然として耻ぢざるのみならず却て得意顔に誇り散らせり其佛祖に對して不敬も甚しく祖先代々の墳墓を辱しめ身には家財の幾分を消却して少くも國の美術を失ふものなり罪の大なるは之を許すも我身知らずの馬鹿者には呆れ果てざるを得ざるなり是れ豈に國家風俗上に大なる害毒を流すものにあらずして何ぞや
○衛生上の害毒 病氣になるも醫者を招き薬を吞むべからずみかぐら踊りの御利益にて必ず本復疑ひなし又

衛生豫防及
醫藥の
不用

天理王命の神札さへ身に持てばイカなる流行病にては
決して恐るゝに足らず。コレヲ赤痢。腸チブス。インフルエ
ンザ等にも衛生や豫防をなすに及ばず。若し病氣に醫藥
を用ひたり。衛生や豫防のため心を傾くるものは即ち
神を疑ふものにて却て大なる罰を蒙るなりと威壓と脅
迫にてオドン附け重き枕に就きて苦痛に悩む病人の傍
にてドンくピンくと三味太鼓にて囃し立て。倍々病
勢をして重からしむること少なからず。稀に慈善の明醫
ありて診察を勧め服藥をしゆるも神の嚴罰を畏れて却
て之を勸むる人の親切を怨むに至る。嗚呼世には愚人の
迷信ほど教へ難きものはあらざるなり。十柱の神が太鼓

親切を
怨む

三味にて囃し踊れ。病氣は癩してやるべしとは何時の世
に宜ひたるぞ。若し十柱の神が果して斯るものなれば醫
者や藥屋や衛生家に取りては實に此上もなき仇敵と謂
はざるべからず。是れ豈に國家衛生の上に大なる害毒を
流すものにあらずして何ぞや

○天理教會信徒は却て神の罪人なり

天理教會信徒は十柱の神を以て龜や魚や龍や蛇の變化
なりとなし。病氣の時には醫藥の代りとなし。出産の時に
は産婆の代りとなし。流行病厄除の代りとなし。田地畠圃の
肥料の代りとなし。甚しきは男女淫慾不義姦通の媒介と
なす。其無禮不敬殆んど言語同斷と謂はざるを得ず。特に

神を誣
欺ひ人を

神の本
意に背
く不忠
不孝の
罪人の

十柱の神の内には故らに我皇祖太神の神体を除きて之を禮拜するに及ばずとなす抑も國民忠愛の美德は將た何に依て之を保つことを得るや神は正直の首に宿り給ふ遊んで踊りノヲで暮らして國に害なす奴原にナドて神は幸福を與へ給ふべきや佛檀を壞し位牌を捨て暴行を極めて神はイカに喜び給ふとするか嗚呼天理教徒は上神を誣ひて下人を欺き國の安寧風俗を亂すものなり。即ち知る天理教徒は十柱の神に歸依するものにあらずして其實十柱の神の本意に背く不忠不孝の大罪人と謂はざるを得ず去るにても猶神の保護を蒙りつゝあると思ひいるか氣の毒千万と云ふの外なし

○天理教退治愉快節

(鉄拳子投)

東洋に光り輝く日本の國に世にも名高き佛法の貴き真理のあるなるに何が不足か知らねども野蠻極る天理教に「迷ふ奴原の氣が知れぬ愚人天下の半とは豫て聞きつることなれど餘りとして情ない。ヨモヤと思ふ人さへもいちれつすましの仲間入我も我もと踊り出す都も鄙もおしなべて今を盛りの有様は。「サテも困つた次第なり去ぬる明治二十年正月二十六日におみきの婆々が死亡なし其翌年の二十一春の四月に教會の認可を得たる以來は僅か七年足る足らずソレに跋扈の勢ひは東は奥州仙臺に西は四國や九州と津々浦々の邊まで。」

すけたまへの聲がする中にも江州甲賀郡山城攝津や三丹州播磨對馬に南海道馬鹿と氣違ひ算ふれば總勢合せて二百萬三味線太鼓に浮かされてムシヨウヤマラに跳ね廻り先祖の位牌や佛壇を何の造作もアラ無慘水に流し火に焼いて得意めがして誇り顔たとひ病が起るともコレラや赤痢が流行とも豫防衛生も何のその醫者も薬も用はなし貧乏人も忽ちに富貴榮達ものあたり百姓は肥料を用はずに稻は豊にみのるなりコレも何ゆへ十柱の神の恵があるからじやイナレツスマシテ皆な共に助け給へと祈れがしイカに馬鹿者相手にて氣違ひたらしの手段でも聞けば聞く程なさけないコレでも我々同胞

と思へば額に汗が出るイカに有志の方々よ斯る野蠻の天理教が日一日に跋扈して國家の進歩や文明の妨害なせる其上に教育衛生經濟の道を遮ぎるのみならずオマケに男女淫慾の媒介なして姦通の不義の取持マダ愚が墜胎や私生の子を生みて國の風俗カキ亂す同胞の耻辱と知るならば競ひ起りて諸共に天理教退治を勉むべし

○天理教退治一ツセト一節(在京都 萬非乞士稿)

一ツトセー

廣い世界の其中に君子國として名も高き

日本の國の其中に

二ツトセー

深き道理も知らずして虚言と偽語でかためたる

世にも馬鹿氣た天理教

三ツトセー

未開の民を誘いて毒を吹込むツラ憎くさ

是が社會の害物よ

四ツトセー

世には愚人が多きゆへ今じや漸く蔓りて

二百万もあるといな

五ツトセー

伊賀や近江や山城や攝津播磨に紀州丹波

ソシテ大和は根本地

六ツトセー

ムシヨウヤダラにハチ廻りダスケタマへと氣違ひが

笛や太鼓で踊り出す

七ツトセー

何も仕事をせぬとても家財道具や金銀は

神から興へて下さると

八ツトセー

早けても雨つてもカマヤせぬ肥料も入らずに田はできる

神の保護があるからじや

九ツトセー

ユレラや赤痢や腸チブスインフルエンザも何のその

豫防も衛生も入らぬこと

十トセー

時に病が起つても醫者も薬も用はない

わきめをふらずに神のため

十一トセー

イカに道理を知らぬとてノボセ上るも程がある

ナト氣を沈めて聞き給へ

十二トセー

日本の耻とも知らないが少は外聞も構ふて呉れ

耶蘇でさへか笑ふている

十三トセー

サマデに神を侮るな醫者や薬の代りとは

無禮至極も程がある

十四トセー

白髪頭を振立てゝ先祖の位牌や佛壇を

破壊して捨つる不狩漢

十五トセー

後悔するのは今のこと眞の神は捨てたまひ

却つて罰を蒙るが

十六トセー

路頭に迷ひてなげくとも神も佛も知らぬ顔

我身を怨むの外はない

十七トセー

七顛八倒苦しみて疲勞儲けて損をして

友達知邊に捨てられて

十八トセー

耻かしめて阿房らして世間へ面出もならぬとは

なさけない身になり果た

十九トセー

國家や社會に害をなすムダな宗旨は滅ぼさじや

吾等の義務は立ぬぢや

二十トセー

西も東も追ひ拂ひ南も北も責め立て

退治するのが本分じや

天理教退治終

明治二十七年五月廿五日印刷
同年六月一日發行

版權所有

京都市下京區下珠數屋町
東洞院西二入橋町八番戶

發行者 西村九郎右衛門

京都市下京區木屋町五條上ル

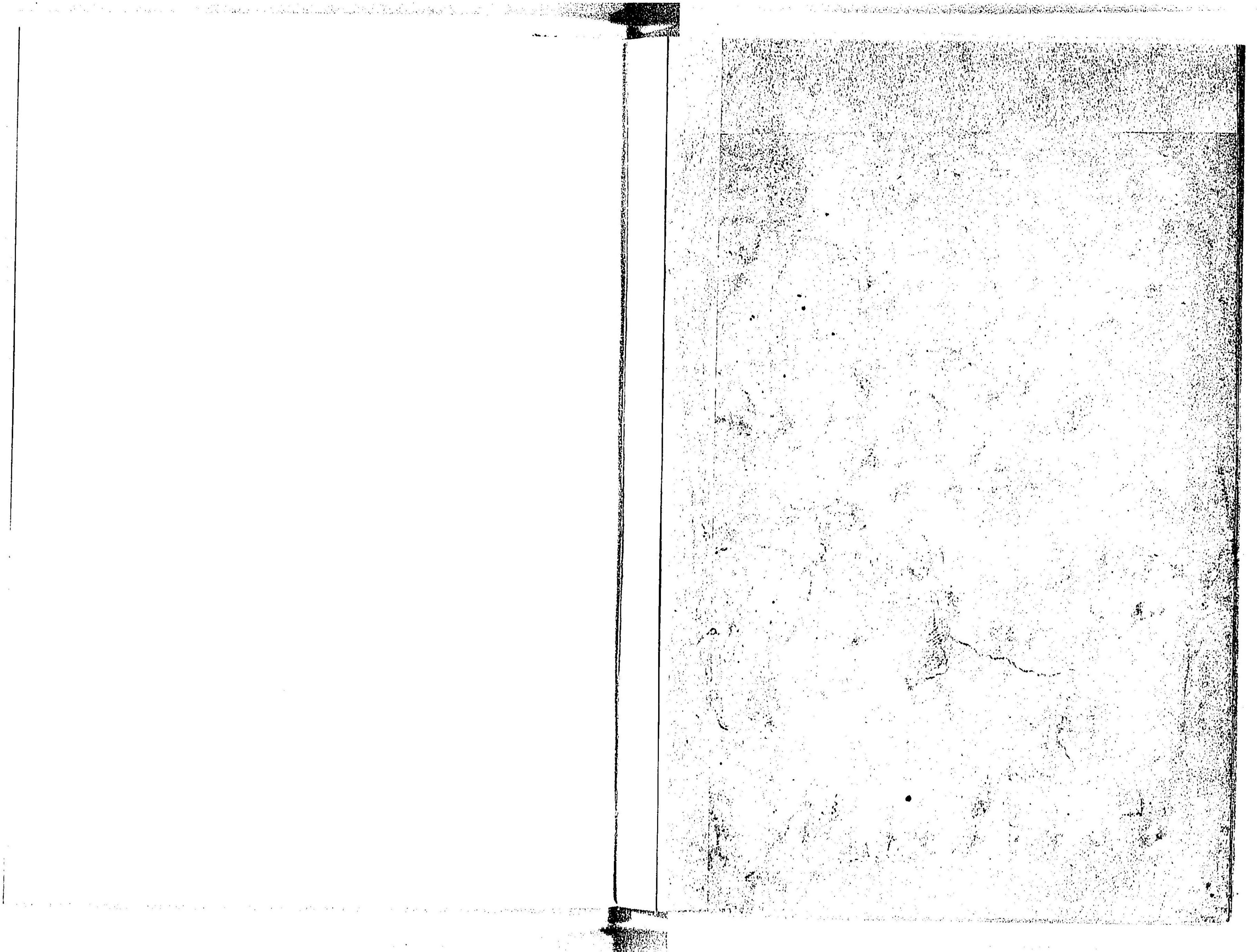
下材木町七番戶寄留廣島縣平民

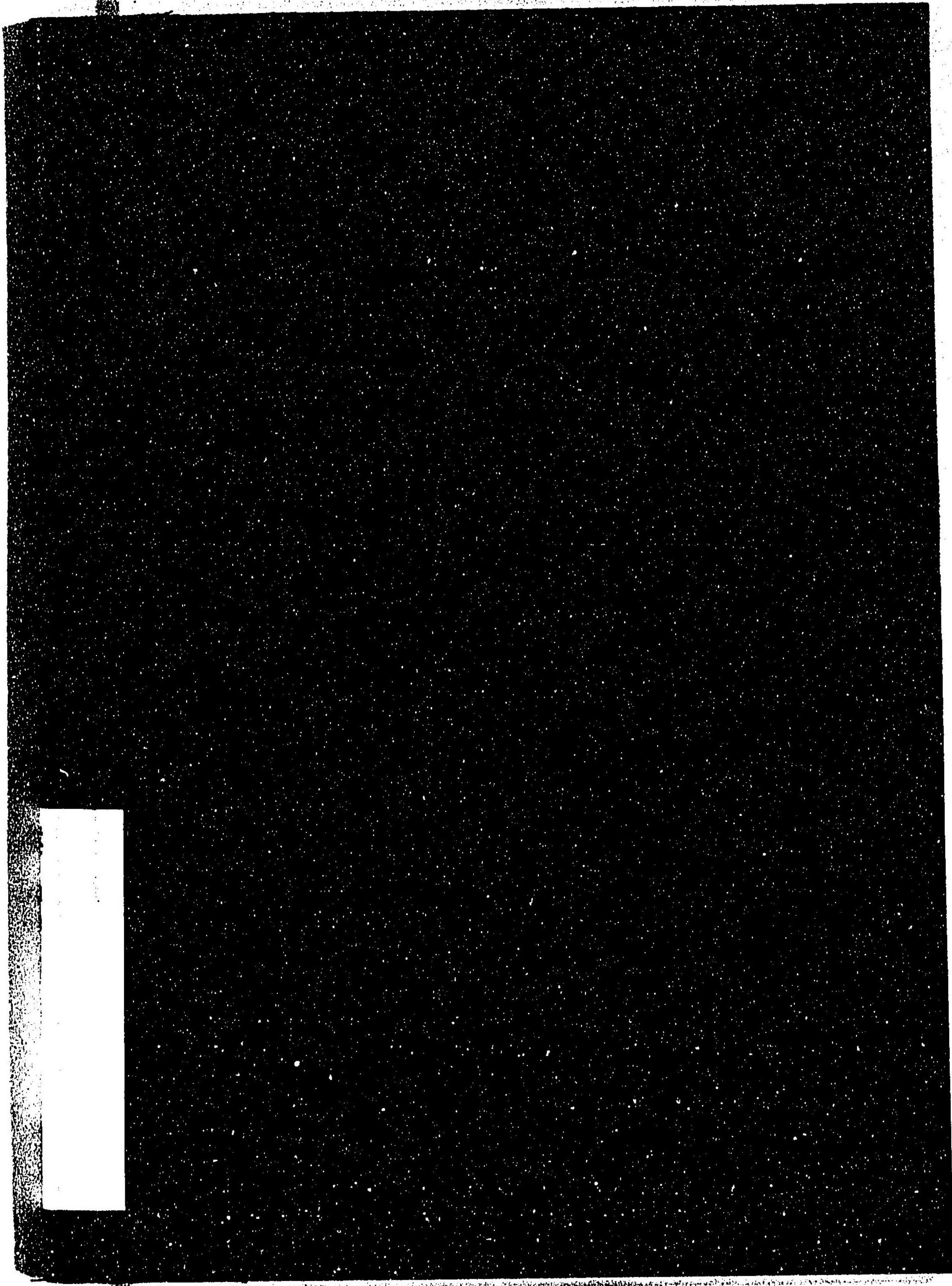
編輯者 奧野研壽

京都市下京區五條通富小路東入

本覺寺前町三十七番戶

印刷者 西村十次郎





Small, illegible text on a white label strip.

特 50
844

天理教退治

国立国会図書館

014447-000-2

特50-844

天理教退治

越南子/著

M27

ABB-0825

